

2025 年度 第8回北海道レフェリーアカデミー 事業報告

報告者: 鈴木辰汰(オホーツク地区)

【日 時】2025 年 10 月 25 日(土) 10 月 26 日(日)

【場 所】10 月 25 日 札幌サッカーアミューズメントパーク多目的室 札幌大谷高校丘珠グラウンド
10 月 26 日 芦別市陸上競技場

【参加者】審判員: 二谷夢翔、高橋陽斗、鈴木辰汰

インストラクター: 古曾部統太郎氏(RAM)、岡田渉氏(RAI)

オブザーバー: 西村雄一氏(JFA 地域担当) 柴田靖士氏(道強化指定審判員担当 INS)

吉村心(北海道学連3級審判員) 沼田翔氏(ユース3級審判員) 三上正一郎氏(1 級審判員)

細谷励氏 高須賀哲平氏 靱山智哉氏、須磨和樹氏(道強化指定審判員)

【テーマ】「ポジショニングと動き」の整理と成長

10 月 25 日

9:30 集合

9:40 講義①「事象分析」「プレゼンテーション」担当: 柴田靖士氏

本講義では、現在1級インストラクター養成コースを受講されている柴田氏から、2つの試合映像を用いた映像分析とFK マネジメントについてお話を頂いた。映像分析では、

(1)カウンターからの DOGSO の状況の時に意識すること

(2)オフサイドの判定で DF が影響を受けるとはどういう状況か

について、ディスカッションを行いながら進めた。特に(2)では「どのようなボールであれば」、「どのような FW の立ち位置なら」と様々な視点からディスカッションを行い整理していくことができた。

FK マネジメントについては、私たち審判員が行わなければならない FK の手順(6ステップ: ①ファウルの笛、シグナル ②ボールのコントロール ③懲戒罰の判断 ④壁のコントロール ⑤主審のポジション ⑥再開の笛)を整理したのちに、映像を見て問題点と改善策について話した。その後、講義を受けて自分なら FK の際に何を意識して手順を踏んでいくのかをまとめた。私たちは時間を短くすることや目の前の一つ一つの行程を踏むことなどに気を取られすぎていることが課題点であると認識できた。全ての可能性を予測し確実にプレーを再開しなければならないということを確認した。



11:00 昼食

11:40 講義②「ポジショニングと動き」 担当:西村雄一氏

本講義では、まずポジショニングと動きは何をもとに決めるのかというところを整理した。

私たち審判員は今まで事象を見るためにポジションを決めると考えていたが、その前にある「状況」を掴むためにポジションを決めるということを特に学んだ。(選手がそうする理由がその状況にある。状況の中で事象が起こる。主審がボールや競技者に当たるときは、事象を見に行っているときが多い)

- ・「周辺視」全体を把握できるのは 120°
- ・「中心視」ポイントオブコンタクトを見極めるのなら5°、「何か」と「全体」を見ることができるのは最大で 90°
- ・技術で用いられる5レーンを審判員の動きに生かすと、主審の動きとして幅が足りないので外側は 10 ヤードの任意のラインのところで考える。中央レーンに止まっている時間を短くしたい。ハーフスペースを「レフェリーゾーン」としてポジションを取ることでボールの出し手と受け手の動き出しを把握したい。
- ・先取りの原則:シールドとなる守備者の背後にポジションをとり、攻撃エリアに視野を確保する
- ・追走の原則:横切らない、串にならない、争点に真っ直ぐ向かわない(状況に走る、事象に走らない)
- ・近づくの原則:ボールに当たらない、競技者の邪魔にならない、スペースの邪魔をしない
- ・離れるの原則:揉め事を止めに入れる距離を保つ

ポジショニングと動きに関する多くのことが言語化されていて、より深くとても有効な知識を得ることができた。試合実践でこれらのことを意識できれば、必ず審判員として成長することができると感じた。

13:15 移動



14:30 試合実践①「インカムを用いてポジショニングと動きをブラッシュアップする」

TM 札幌大谷高校vs北照高校 30分×3本

オブザーバーの西村氏から、自分たちのレフェリングを見ながらリアルタイムでインカムを通してポジショニングと動きについてアドバイスもらう試合実践を行った。一人 20 分という短い時間ではあったものの、初めてのインカム装着ということもあり楽しみながらも、自分の成長に向けて積極的に試合中に質問をしながら全員がレベルアップに向けて取り組んでいくことができた。リアルタイムアドバイスによって、①事象が起こる前の状況を把握できるようになった ②受け手の動き出しを把握することが容易になったため、動き出しが早くなったなど、ポジティブな変化がそれぞれに見られた。

以下、オブザーバーとして参加した二人の審判員の感想

〈沼田〉

インカムを通して西村雄一さんからリアルタイムで動きのフィードバックを頂き、適切な位置取りを理解することができました。「レーン」と「列」など、初めて知る概念もあり慣れないところもありましたが、自分がやりたいことを体現できた時にはハマったという感覚があり、とても楽しかったです。

しかし、頭の中では分かっていたのにピッチに立つとわからなくなることも多々あり、そこについては今後のレフエリングを通して意識しなくても動けるようにしていきたいと思いました。

〈吉村〉

今まで自分の中にあった考えとは全く別の視点を持つことができました。以前までは、ただ「選手に近づいて見る」ことを意識していましたが、真意は「状況から事象を正しくとらえること」にあると認識することができました。また、ただ距離を近くするのではなく、サッカーの審判として、プレーの流れやゴール前の攻防など、正確に判断できる“良い角度”“良い距離”を保つことが大切だということを学びました。これにより、位置取りの意識が大きく変わったとても貴重な経験を積むことができました。

16:30 試合振り返り

17:10 諸連絡・解散

10月26日

9:15 集合



10:30 試合実践② 北海道学生サッカーリーグ1部 最終節 北海道大学vs東海大学

担当: R:高橋 A1:鈴木 A2:須磨氏

〈自己分析〉

緊張はなく試合に臨めたつもりではあったが、映像を見返すと肩に力が入っていたため、もっとリラックスできていればと感じた。

判定基準は概ね一貫していたと感じている。前日に学んだ西村さんのポジショニングと動きをある程度はできたと感じている。今まで主審をやっていたときとは景色が違い、状況を広く監視することができて、出し手と受け手の関係性についても考えながら動くことができた。ただし、まだ頭の中で整理されたことをスムーズな動きに繋げることができていないことも多く、考えてから動くような感じであったため、映像を見返すといつもよりも一歩目が遅いようにも感じた。スムーズな動き出しができるように、深く考えなくても動くことができるようにこれからも努力していきたい。

〈INS分析〉

学生リーグは改正前の競技規則で行われていることもあり、多少の混乱が見られてもおかしくはなかったですが、決してそんなことはなく、スムーズなゲームコントロールを心がけていました。

激しい球際の攻防が多く見られましたが、前日の講義を生かしたポジション、特に事象が起こる前の状況を把握できていたことから、自信を持って判定していた印象です。

①ビルドアップの際のFWのプレスの強度を考慮したポジション(何か起こった時に対応できる距離か)

②GK時の立ち位置の基本(大外にポジションをとったときのリスクを考慮しているか)

を課題点としてあげます。

13:00 試合実践③ 北海道学生サッカーリーグ1部 最終節 札幌大学vs北海道教育大学岩見沢校

担当: R:二谷 A1:鈴木 A2:須磨氏

〈自己分析〉

前半は幅をとった動きを意識していたが、なかなか幅をとった動きができていなかったと感じた。だが、6分岩見沢がビルドアップしているシーンで、札幌がチーム全体でプレスをしていたとき、岩見沢がボールロストする可能性を考慮したポジション・適切な距離をとることができていたのはよかった。そして岩見沢が前線の選手にロングボールを蹴るときも、受け手となる可能性が高い選手をみて、ボールが蹴られる前から動き出しをすることができていた。

また、守備から攻撃にフェーズが移り変わる際、5レーンのセンターレーンをスプリントで駆け抜け、素早くレフリーゾーンに行くことで、状況をいつもより早く把握できていたこと、選手の邪魔にならないポジショニングをとることができていたため良かった。次回以降も継続していきたい。

後半は外側レーンに行く回数が前半より増えたと思う。外側レーンから見る景色はとてもクリアであったので、幅をもった動きをこれからも続けていきたい。

〈INS分析〉

ゲームにマッチしている Physical ではありました。ただし、更に上位カテゴリーを目指すのであれば、Speed Up をさらに磨きをかけて、事象が起こる前に減速が完了しているくらいの爆発的なスプリント力を身につけてほしいです。

課題点としては 76 分ボールにぶつかった事を含めて、同じレーンで動いている事や争点を左側から見ている事で選手の邪魔になっている事がありましたので、前日の講義内容をさらに自分のものにして精度を高めてください。

15:00 試合振り返り

15:40 諸連絡・解散

